２０２３年度　第２回教育課程編成委員会　議事録

日　時：　２０２３年１２月６日（水）　１４：００～１５：１５
場　所：　愛仁会看護助産専門学校　２階会議室
委　員：　公益社団法人大阪府看護協会　会長　弘川　摩子
Office Kyo-shien　代表　池西　静江
社会医療法人愛仁会　カーム尼崎健診プラザ　所長　松森　良信
社会医療法人愛仁会　愛仁会本部　看護担当特任理事　増山　路子
愛仁会看護助産専門学校　学校長　　清水　富男
愛仁会看護助産専門学校　副学校長　藤尾　泰子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事　増本　綾子、小林　理絵
愛仁会看護助産専門学校　助産学科　教育主事　大石　有香
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　実習調整者　長澤　亜由美、清水　弘子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者　長嶺　洋子、西山　玲子
愛仁会看護助産専門学校　事務部長　澤﨑　隆志
愛仁会看護助産専門学校　事務　　川口　璃子（書記）

議事次第
１．学校長挨拶
２．出席委員の紹介
３．第２回テーマ　新カリキュラム「病態と治療」「看護形態機能学」科目評価
　臨床推論を用いた考える力の強化を目的として、専門基礎分野である「看護形態機能学」と「病態と治療」において、旧カリキュラムと新カリキュラムの授業形態の比較を行い今後の課題について検討した。

＜結果と課題＞
【教員アンケートから見える課題】
「看護形態機能学」
・限られた時間の中で何を教授するかを精選する。
・学生が具体的なイメージができるような伝え方や教授内容を絞り込む。
「病態と治療】
・実習に役立つように実感できるような伝え方や教材の工夫をする。
・1 コマで効果的な授業となるように内容の選定・時間配分を検討する。

【結果】
「看護形態機能学」では専門用語が多く、医師の講義だけでは理解できない学生も多い。その中で解剖の知識が看護に繋がるように事例を踏まえて教授することで看護に活かすイメージがついてきていると考えられる。そのため、同じ科目の中で医師と教員の講義を繋げて行ったことは効果があったと考えられる。また、「病態と治療」についても、1 年次に教員が「症状のアセスメント」の講義を行うことで「病態と治療」の知識を学ぶことの意味付けがされ、2 年次の各援助論に繋がっていると考えられる。さらに、

事例展開を行うことで実際にどのように活用するかのイメージでき、実習に活かされていると考えられる。

【課題】

・現在２年次で学ぶ各援助論において事例展開が多く、学生が余裕をもって学ぶことができていないため、進度や事例展開の内容を再検討する。

・教員の講義時間数が少なく、教授内容の精選や時間数も検討する。

・新カリキュラムで学んだ学生たちが、臨地実習での学びにどのように繋がっていくのか評価を行う。

４．質疑応答

（委員）新カリキュラム対象の２年生より１年生の方が良いアンケート結果であるが、結果の差は何か。教育方法を変えたのか。

（学校）２年生の理解が難しかったことを踏まえて、１年生への教え方を少し変えたり教員を変更する工夫を行った。

（委員）ワークシートに症状のアセスメントが出てこないのは問題ないのか。

（学校）科目のねらいが症状アセスメントではない。今後、授業目的を達成するワークシート作成や科目の展開を検討しなければならない。新カリキュラムでは授業に意図的に組み込んだので、来年の３年生の同時期にアンケートを取り、結果を比較しても良いのではないか。

（委員）学生アンケートのみでは、教育内容の良し悪しは読み取れないのではないか。
学生が専門用語に対して難しいと回答しているのであれば、医師の講義の前に教員が事前に導入の講義を行うことで言語の理解を一致させ、看護（生活行動）につながる授業構築になると思う。同じアンケートを取るのではなく、点数評価等の別の分析が必要になってくる。

（学校）「解剖生理学」「病態生理」で何を学ぶのかの導入のコマを設けることを検討していく。
学生の意見を聞くと、看護教員の時間に余裕を持ったカリキュラム設定にしていく等、時間数の整理が課題である。

（学校）「看護形態機能学」の１コマ目に看護教員が導入の講義を行うと、学生にとってわかりやすく面白いのではないかと思った。

（委員）看護教員の担当時間数が増えていることによって実習に役立っているのではないか。
学生アンケートでは評価しづらいので、試験結果等客観的な評価ができるデータがあれば良い。

（委員）学生の理解度が高くても、試験結果には表れにくく評価がしづらい傾向がある。

（委員）実習評価は総合評価であるので、分析が難しい部分がある。

（委員）学生が思考するプロセスの中に「解剖生理」を積み重ねていき、臨床に出てその思考で対象を見ることにつながっていくので学ぶ順番が大切である。ワークシートに思考の流れを入れたりすることで、３年間で学生の学びはつながっていくのではないか。
今の新人看護師をみていると、コロナ渦の中で臨床実習を行えなかった弊害はあるが、シミュレーションの機会が多くあったからなのか、思考力がしっかりついていると高く評価され、思考がつながるトレーニングが役立っているという評価であった。対象にも同じ思考で考えられるようなワークシート作りができれば良い。

（委員）ワークシートは考え方の流れがのっており大切である。学生がつながりやすく、わかりやすいものを作成してあげれば良い。

（委員）もっとグループワークを活用して思考を広げるのは大切である。アンケートで自覚を問うのは

難しいかもしれないが、質問内容によって多少経年的な変化は見られるかもしれない。
実習評価において学生がどのように変化してきたかを評価することによって、新カリキュラムの評価にもなるのではないか。

（学校）看護の思考過程を教える中で、思考の流れをトレーニングすることがいかに大切か学んだ。教員アンケートでは、担当教員がいかに模索して学生に教えているのかがわかり、意図したことを学生に教えられるように教員間でも共通理解をしておかなければならないと感じた。

（学校）学生の思考を鍛えるために、教材の活用を検討し、授業の流れや時間配分を検討していくことや、授業研究することによって教員間で意見交換し、より良いカリキュラムにしていきたい。

（学校）学生アンケート結果より、「病態と治療」は教員が行うことで援助論につながっているので効果的であったと思う。医師・看護師等誰がどのように教えるかが大切だと思った。今後その部分をどのようにつなげて学生へ学ばせるのかが課題である。また、担当時間数が少ないと医師からの意見もあるので、看護教員の時間数とどのように調整するかが課題である。

（学校）1 つの科目の中で医師・看護師が流れで教えていくことで、学生にとって学びが繋がっているのではないか。

（学校）学生へ教える知識が多いが、講義の時間数が少ないと思うので検討が必要である。

（学校）模試の結果は客観的に成果を図れると思ったが、委員の意見を聞いて簡単に図るのは難しいと知った。教員が学生に教える際に、何を覚えさせ、どの思考過程を押さえるかを整理することや、複数の教員で検討する仕組みづくりが必要だと思った。また、学生に考えさせたりディスカッションさせたい場合、授業時間内で時間を設けるのは難しいが、自己研修をする時間割の組み方は問題があるのか。

（委員）自己学習はカリキュラムではないため、研修時間を計上するのは問題がある。学生が自発的に行うよう、どのように課題を提示するかが大切である。例えば、色んなシナリオのシミュレーションモデル（シナリオ）を学生に見せ、事前課題を提示し、ディスカッションし、発表させる方向に持っていくために、学生が自主的に行う課題を設定するのはどうか。実際に、1 年次から課題に取り組み看護学生の自覚を持つことで、自発的に学ぶ動機付けにつながることは有効的であると他校で意見があった。

（委員）時間割上ではなく、学生に次回の授業内容の事前課題を出すなど、主体性を引っ張り出す仕掛けを考える必要がある。講義内で病態関連図を書かせると、学生は iPad 内に個別で書き込むことで共通認識ができず、グループワークにならない現状がある。今後どのように iPad を使用させるかも合わせて考えなければならない。

（学校）学生はその場にいても話し合いを LINE で行うことがある。グループワークの時間は iPad を使わないように指導している。

（委員）現場でも会話で情報共有ができない等、iPad 等でのコミュニケーションを行うことでの弊害も出てきている。看護をする上で対象者に対話することが必要であり、学生のうちに対面で討議する経験は必要である。

（委員）愛仁会では後輩指導の際、先輩が先に行動とその理由を口頭で説明し、それに対する後輩の考えを述べてもらうことで、気づきの思考を発言するトレーニングを行っている。

以上